

多摩川における飯室泥岩層産のヒラツメガニ およびエンコウガニ化石

武田正倫¹・増淵和夫²

Crab Fossils of *Ovalipes punctatus* (de Haan) and *Carcinoplax longimana* (de Haan) from the Iimuro Formation (Kazusa Group) in the TAMA RIVER

Masatsune TAKEDA¹ and Kazuo MASUBUCHI²

武田・増淵(1984)において、多摩川の上総層群、飯室泥岩層産のイチョウガニ化石を報告した。本報告では、同じ産地より得られたワタリガニ科ヒラツメガニとエンコウガニ科エンコウガニの化石を記録する。

これら2種も現生の個体群と比較して特に相違は認められない。したがって、生態的にもほぼ同様であったと推定され、当時の海洋環境を知るための手掛りとなる。いずれも内湾性の浅海にすむ種で、水深30~100mにすむ。底質は一般に砂泥質であって、東支那海での調査を行った山下(1965)によれば、エンコウガニは、ほとんど粒度0.25~0.49mmという細砂泥質帯から得られている。以下に産出化石の性状を示す。

ヒラツメガニ *Ovalipes punctatus* (de Haan, 1833)

甲および左鋏脚。ともに保存状態は良いが、甲の額部と左前側縁は基質に埋もれている。甲幅約9.2mmの大型個体で、甲面は弱く湾曲し、中央にH字形に近い溝がある。前側縁5歯は互いに深くぼみで隔てられ、前4歯はそれぞれ先端が前方を向いてとがっている。左鋏脚は甲の背面、すなわち雌型の裏側についていることから、同一個体のものであると思われる。強大で、掌部外縁に2本の稜が縦走する；掌部の全面に小顆粒があり、下縁には18本ほどの線状の短い稜が並んでいる(現生種の特徴とよく一致する。これらの稜を、第1歩脚の長節末端にある稜とこすり合わせて発音するといわれる)。

ヒラツメガニ属は、Stephenson & Rees (1968)によれば、10種類知られている。そのうち、発音器をもつのは、日本と中国沿岸産のヒラツメガニのほか、オーストラリア南部産の *O. australiensis* Stephenson et Rees、オーストラリア東南部およびニュージーランド産の *O. cattharus* (White)、ケルマデック諸島近海産の *O. elongatus* Stephenson et Rees、アルゼンチン沿岸産の *O. trimaiculatus* (de Haan) である。ヒラツメガニの分布が世界的という各種図鑑の記述は誤りである。

エンコウガニ *Carcinoplax longimana* (de Haan, 1835)

甲6、左鋏脚1、左掌部1、左鋏部1。最大個体は甲幅約3.7mm。いずれも保存状態があまり良いとはいえないが、3個体は甲が完全に露出し、同定のために支障はない。3個体のうち2個体は胸甲、腹部ともよく保存され、いずれも雄である。

1 国立科学博物館動物研究部 Department of Zoology, National Science Museum, Tokyo

2 川崎市青少年科学館 Kawasaki Municipal Science Museum for Youth, Kawasaki

エンコウガニ類は、現生種、化石種ともに、成長にしたがって前側縁の3歯が磨滅し、それも個体の大きさによって程度が一定しているわけではないので、近縁種の識別は必ずしも容易ではない。日本産の化石エンコウガニは、Imaizumi (1961)、今泉 (1978) によれば、ムカシエンコウガニ *C. antiqua* (Ristori) [北海道阿寒町雄別；岩手県門ノ沢層；宮城県網尻層、二井宿峠層；福島県梁川層、中山層；埼玉県秩父市ヨーバケ；富山県八尾層、魚津市；奈良県藤原層]、*C. prisca* Imaizumi [宮崎県宮崎層群；沖縄]、*C. senecta* Imaizumi [福島県沼之内砂岩層；茨城県九面砂岩層] の3種が知られている。手許の標本は前側縁の歯がいずれも鈍頭になっているが、甲は化石3種に比べて明らかに横長で、甲長、甲幅の比は現生のエンコウガニのものにほぼ一致する。すでに引用した山下 (1965) によれば、雄では甲長4~4.5 cmに達すると掌部および長節が急速にのびて長大なはさみ脚になる。左鋏部の化石標本は著しく大きく、対応する甲は得られていない。現生のエンコウガニは、日本近海、東支那海、インド近海、南アフリカ沖から知られている。

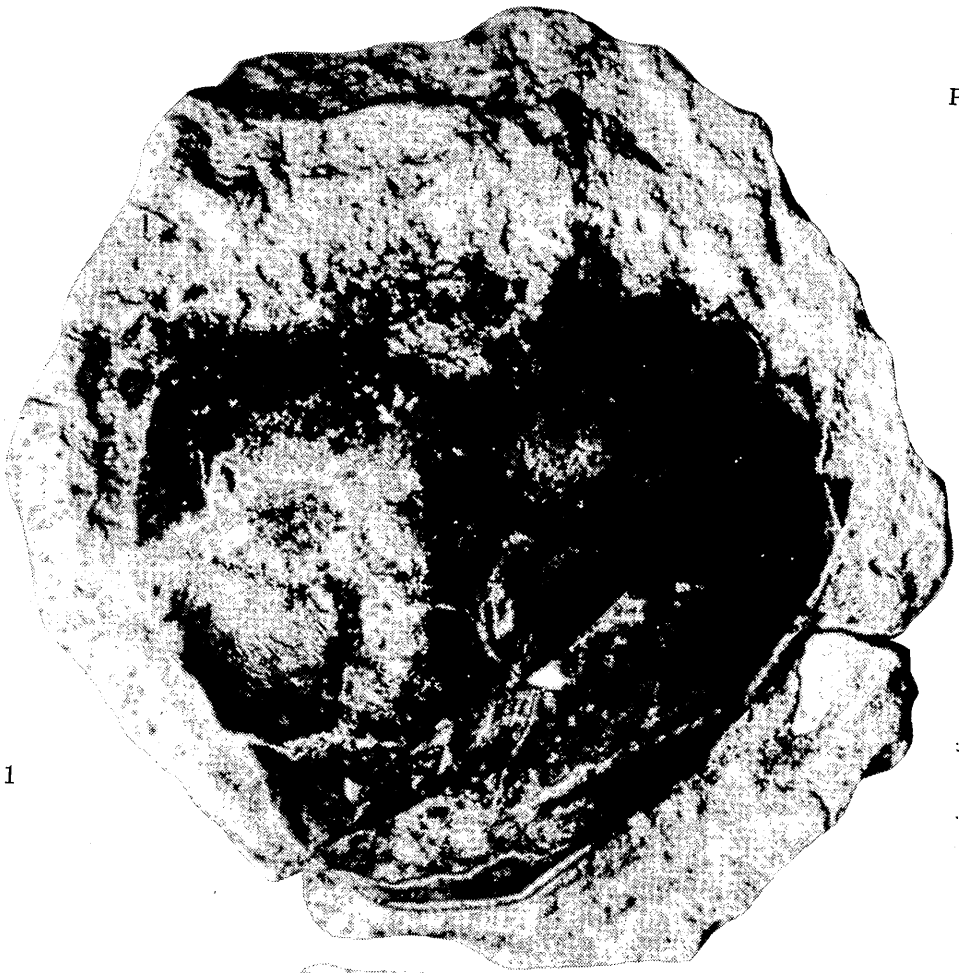
カニ化石標本	採集日	採集者	採集地	写真 №
ヒラツメガニ 甲, 左鋏脚	1983年6月5日	大沢 進	多摩川宿河原堰堤中洲	プレート1 №. 1, 2
エンコウガニ 甲3	1983年6月5日	橘 隆仁	〃	プレート2 №. 1-3
甲1	1983年6月5日	高松 健	〃	〃 №. 4
甲1	1983年6月5日	増渕和夫	〃	〃 №. 5
甲1	1984年7月	森本信人	〃	〃 №. 6
左鋏脚	〃	〃	〃	〃 №. 7
左掌部	〃	〃	〃	〃 №. 8
左鋏部	〃	〃	〃	〃 №. 9

謝 辞

本報告を作成するにあたり、大沢進氏ら化石採集者の方々には、心良く資料を提供して下さい、深謝に耐えません。

引用文献

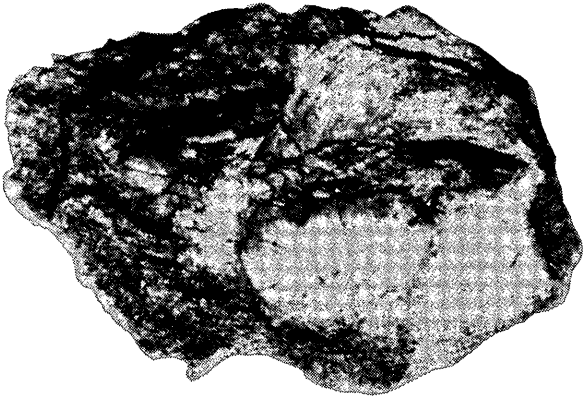
- Imaizumi, R., 1961. A critical review and systematic descriptions of known and new species of *Carcinoplax* from Japan. *Sci. Rep. Tohoku Univ.*, (2), 32: 155-193, pls. 12-21.
- 今泉力蔵, 1978. 日本産化石甲殻類、とくに貝甲類および軟甲類の分類。今泉力蔵教授業績顕彰記念会, vii + 49 pp., 6 pls.
- Stephenson, W., & M. Rees, 1968. A revision of the genus *Ovalipes* Rathbun, 1898 (Crustacea, Decapoda, Portunidae). *Rec. Austr. Mus.*, 27: 213-261, pls. 35-42.
- 武田正倫・増渕和夫, 1984. 多摩川における飯室泥岩層のイチョウガニ化石について。川崎市青少年科学館年報, (2): 27.
- 山下秀夫, 1965. エンコウガニ *Carcinoplax longimanus* (de Haan) の成長に伴う“はさみ脚”の変化。甲殻類の研究, (2): 10-18.



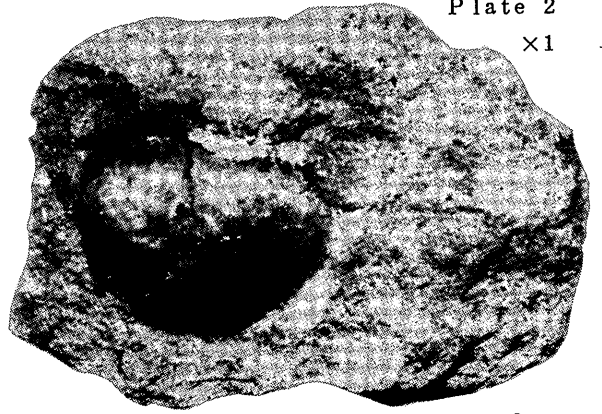
1



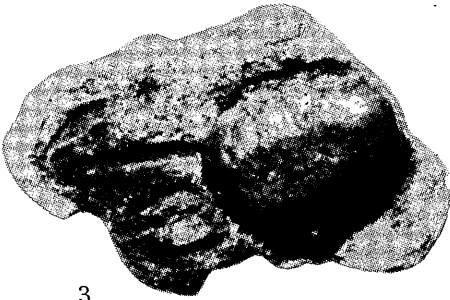
2



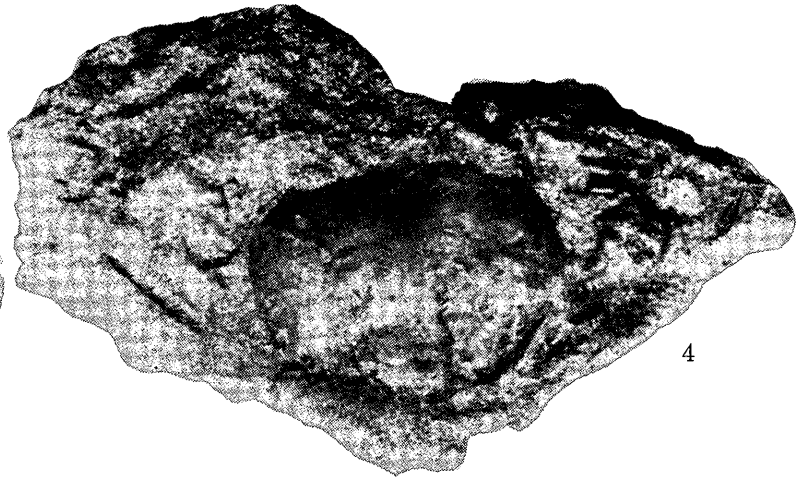
1



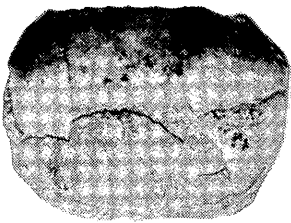
2



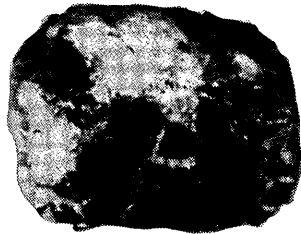
3



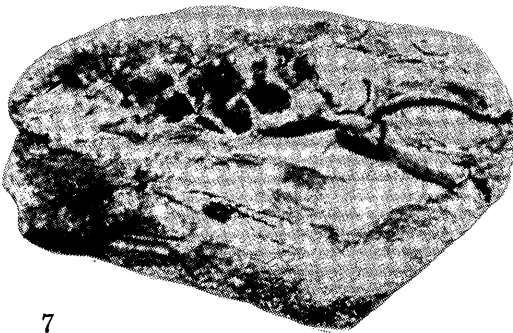
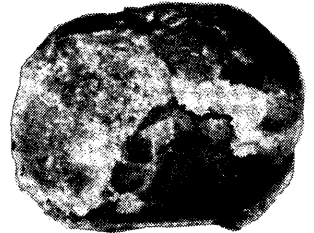
4



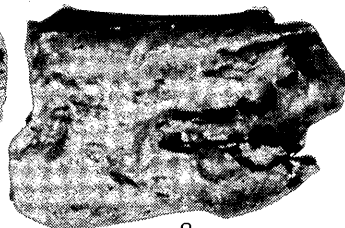
5



6



7



8



9